

『京都の森林と文化』ナカニシヤ出版、近刊。  
他は授業中に指示する。

A102		観光まちづくり論	
英名科目名	Town Planning for Tourism		
大学名	平安女学院大学		
連絡先	京都キャンパス教務チーム TEL : 075-414-8160 FAX : 075-414-1150		
担当教員	高橋 義人		
開講期間	2021年04月12日(月)～2021年07月26日(月) 4講時 14時05分～15時35分(毎週月曜日)		
開講形態	前期・春学期	開講曜日・講時	
単位数	2	履修年次	2年次以上
会場	京都キャンパス		
授業定員	70		
単位互換生定員	15	京カレッジ生定員	10
試験・評価方法	授業参加度30%、小テスト20%、 期末レポート50% 合計100% 本やネットを丸写ししたレポートは認めない。		
超過時の選考方法	書類選考		
受講料	40,000円(登録料10,000円別途必要)		
別途負担費用			
その他特記事項	フィールドワークに係る交通費(実費) 女子のみ受講可		
パッケージ科目			
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
<p>【講義概要】 人口減少化時代の今日、中小都市はますますさびれゆきつつある。中小都市が生き残るには、魅力的なコンパクトシティをつくるしかない。ドイツやイタリアでは、コンパクトシティや脱モータリゼーションの試みが盛んである。それらの事例をもとに、日本の中小都市を観光客の訪れるような魅力的な町として再生させるにはどうしたらいいか、考察する。</p> <p>今日、京都市では1年に千軒ずつ古い町家が取り壊され、古都の面影が失われつつある。このままでは京都は観光客がぜひとも訪れたい「古都」ではなくなってしまっただろう。そこで、どうしたら京都を魅力的な「古都」として再生させようか、考察する。京都の小路、京格子、オープンカフェの取材など、フィールドワークも課す。</p> <p>【到達目標】 自分の古里や自分の愛着のある町をどうやったら再活性化できるかについて考え、自分なりの積極的なアイデアを出し、ふるさとの知人・友人にそれをきちんと説明できるようになること。</p>			
講義スケジュール			
第01回 京都は本当に美しいか 第02回 京都と大阪の看板 第03回 大地震後のまちづくり 第04回 少子化とふるさとのまちづくり 第05回 京町家を守る、景観を守る 第06回 脱モータリゼーション(フローニンゲン) 第07回 コンパクトシティ 第08回 シャッター通りから黒壁スクウェアへ(長浜) 第09回 江戸時代の町の復元(近江八幡と彦根) 第10回 ピカピカのニュータウンを風情ある町に 第11回 マンションと古典的な長屋・町家 第12回 水と緑のまちづくり 第13回 京都の小路と辻子 第14回 茶店とオープンカフェ(広島と横浜) 第15回 京の石畳			
教科書	なし		
参考書	松原隆一郎著『失われた景観 戦後日本が築いたもの』PHP新書、2002年。 田村明著『まちづくりと景観』岩波新書、2008年。		